

社団法人ゼンコロ 2011年度事業計画書

1. はじめに

ここ数年は、まさに日本における障害者問題を巡り様々な論議が展開され、人間としての尊厳を問う、重要な岐路となっている。周知のごとく、2010年は、「障害者自立支援法訴訟の勝利をめざす会」による政府との和解で幕を開けた。2011年度も引き続き、当事者・関係団体等により多くの議論の場が持たれ、集約されていくものと思う。しかし、一方で、未解決の問題が山積していることも事実である。特に、障害者権利条約については、日本がその批准に向かって署名をしたのが2007年9月。それから3年を超える歳月が経過しているものの、まだ批准には至っていない。過日は、障害者権利条約推進議員連盟が発足し、国内法の整備を急いでいるが、まだ批准というレベルには至っていない。また、昨年1月、「障がい者制度改革推進会議」が内閣府に設置された。昨年度は、合計29回にも及ぶ会議が開かれ、その間、第一次意見書に続き第二次意見書が提出され、障害当事者の声は何らかの形で、段階的ではあれ陽の目を見ることになった。しかし、第二次意見書が推進会議に上程される今年の3月以後、この意見書が国会でどう措置されるのか予断を許さない。

また、障害者の就労支援の場として、さらに制度改革に向けた運動体としての社団法人ゼンコロは、今年10月に創立50周年という大きな節目の年を迎える。印刷を主とした事業の構築と推進、障害者運動の展開を始めとする、先達の労苦をいまさらながら思い、障害者が人間として普通に、安心して暮らせるように、一層の努力を重ねなければならない。50周年という節目ではあるが、障害者問題解決の機運が高まる中、周年事業を大きく展開するのではなく、内外への謝意を心から表すことに意を注ぎ、華美にすべきではないだろう。

さらに、大きな課題が控えている。今年ゼンコロでは、法人格を社団法人から公益社団法人へと移行することを検討する。「公益とは何か」「何が公益にあたるのか」「我々が求め、行動するゼンコロの目的とは」。これらの問いに正面から再度向き合い、公益の名に恥じぬ活動を内外に展開する必要がある。まずは、名実共に公益社団法人に相応しい体制を再構築し、ゼンコロイズムに賛同する同志を個人・団体を問わず積極的に受け入れられるように努める。

次に、これまで取り組んできた運営委員会と各プロジェクトの議論について、検証をしてみたい。運営委員会等は、ゼンコロの次代を担う委員で、会員法人から推薦を受けている。2009年6月の第53回総会で決定されてから、約1年半、各プロジェクトとも、幾ばくながら事績を残すことができた。事業プロジェクトでは、会員法人のひとつからおむつ支給事業に関する提案があり、各代理店との精力的な交渉の結果、当法人を筆頭として、他の法人でも、この新規事業に取り組み始めた。企画プロジェクトでは、うつをテーマにしたセミナーを外向けに開催し、その内容を冊子化して好評を博し、この病を社会に対して啓発することができた。また、運営委員会においても、両委員会での活動を統括し、理事会に挙げ、実行に移すという役割を果たした。また、運営委員会では、ゼンコロのこれからの方向性を見据え、情報交換機能だけではない、運動体としての役割について様々な論議を加えている。今後とも、各プロジェクト等での議論による萌芽を立派な木々に成長させる必要がある。2011年度も引き続き議論の質を高め、具体的な成果を出すべく各委員が組織として挺身することを期待している。最後に2011年

度は、三役が新体制となる。急な変革は無理としても、会員法人の支援を得て、着実な歩みを刻んでまいりたい。

2. 活動内容

上述した、方針・理念を具体化すべく、以下の活動を実施する。また、会議開催にかかる旅費交通費については、その活動を保証すべく前年度に引き続き今年度も予算に計上する。

(1) 総会ならびに理事会

総会は2011年6月に第57回を、2012年3月に第58回を、それぞれ開催し、同日に理事会も開催する。また、拡大理事会は2011年10月に開催し、2011年度の上半期事業報告案・中間決算案・決算見込について審議をする。

(2) 三役会議ならびに事務局会議

三役会議は2011年9月と2012年2月に実施する。事業全体の執行状況ならびに事業計画の大枠を検証することなど、理事会で審議される課題を検討する。

また、事務局における実務の進行状況を報告・確認すべく、事務局会議を月に1回実施する。

(3) 運営委員会

2011年度、運営委員会は会議を4回実施する。ゼンコロという組織体の事実上の執行部として、事業プロジェクトと企画プロジェクトを統括し、両委員会で議論・提案されている課題を議論し、理事会に提案し、実行に移してゆく。同時に、ゼンコロが社団法人から公益法人へと新たな法人格への移行を申請するにあたり、ゼンコロ外部の個人・団体にたいして会員の門戸を開くことで、新しい会員の拡大に努める。

(4) 事業プロジェクト

事業プロジェクトでは会議を4回実施する。ゼンコロの全会員法人に共通する印刷事業をいかにして立て直すのか、また2011年度から開始するおむつ支給事業をいかにして定着させ、さらに新たな事業の萌芽をいかにして掲げるのか、こうした課題に取り組む。合わせて、古紙の回収事業についても一層顧客が拡大するように努める。

(5) 企画プロジェクト

企画プロジェクトでは会議を4回実施する。ゼンコロ外部にむけたセミナーを、50周年記念事業と冠して、10月頃に開催する。セミナーの内容は小冊子として発行し、また、同セミナーを開催するにあたり、記念誌を発行する。また、ゼンコロ内部に向けた研修会を2012年2月頃に開き、ゼンコロに属しても、帰属意識が芽生えにくかった次世代を担う従業員が一同に会する場を設け、共通する課題等を浮き彫りにする。さらに、広報誌については、「内部の機関誌ではなく、外部にも読まれる、障害者問題の最新情報誌」として、体裁・内容を刷新する。ホームページに関しても適宜適切に内容を更新するなど再構築を実施する。

(6) 日本障害者協議会・社会支援雇用研究会

運動体でもあるゼンコロは、我が国の障害者問題のキーパーソンでもある「日本障害者協議会」の運営に最大限協力する。また同協議会に設置されている「社会支援雇用研究会」での調査・研究活動も全面的な支援を行う。(了)